

学校教育目標

「認め合い、学び、夢に向かって挑戦する生徒の育成」

～楽しくなければ学校ではない～

➤ 本校におけるスクールミッション

- 開設58年目（1968年、昭和43年開設）を迎える、京都市立中学校唯一の「難聴学級」設置の理念を普遍化した、「個の課題に寄り添い、支援し、自立を目指す」教育の推進。
- 伝統ある京都、上京への愛着を持ち、将来の地域の発展と地域活動の継承を担える、創造性と活力あられる生徒の育成。

➤ 目指す学校像

- 一人一人に寄り添い、自立を支え、未来の地域社会を担う生徒を育てる安心・安全な学校

➤ 目指す生徒像

- 【自己調整力・課題解決力】
予測困難な社会を生き抜くための『生きる力（学力）』を身につけ、自分や自分に関わりのある人たちのウェルビーイングを創造できる生徒
- 【共生・協働力】
他と協働し、他を思いやれる心としなやかな折れない心を持った、人権意識の高い生徒
- 【生命尊重・自己管理能力】
「生命の尊厳」をすべての基盤として、健康増進のため課題を意識し、自ら心身の鍛錬に取り組める生徒

➤ 育成を目指す資質・能力

- 自己開拓力・自己省察力

➤ 目指す教職員像

- 互いにフォローし合い、それぞれの良さが活かせ、「和」を大切にしながら新たなことに挑戦できる教職員集団
- 「学び続ける生徒」の育成に向け、自ら学び研鑽に努める教職員
- 生徒の自己指導能力の育成に向け、愛情と慈しみの心をもって生徒と接し、認め、支援できる教職員
- 教職の尊さを自覚しながら、未来の人材を育成することへの使命感あられる教職員

➤ 令和8年度重点的に取り組む事項

① 課題解決力の育成とそのための授業改善

- 生徒にとって「取り組み甲斐のある」学習課題を設定し、試行錯誤しながらその解決に向け取り組める単元・題材等の構想を工夫する。
- 生徒が「自分ならではの学び方」を活用して学習活動にとりくめるよう、学び方を選択できる場を設定し、課題解決につなげる。
- 総合的な学習の時間における探究活動を充実させ、各教科で身につけた資質・能力を統合的に活用する課題解決学習に取り組ませる。

② 自己指導能力育成に向けた発達支持的生徒指導の充実

- 「生徒指導の4つの視点（自己決定の場の提供、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、安全・安心な風土の醸成）」を教育活動・生徒会活動等において充実させ、生徒の自己指導能力獲得を支えるための生徒指導に取り組む。
- 不登校生徒には丁寧な寄り添いと繋がりを維持しながら、学校や学級だけではなく、外部機関等との連携の中で学習保障を行う。
- 「いじめ見逃しゼロ」達成に向け、組織的対応を行う。

③ 多様な生徒の背景に迫る、生徒理解と総合育成支援教育の充実

- 課題を抱える生徒の奥にある「背景」を理解し、その「背景」に起因する「困り」に寄り添いながら、発達特性等を踏まえた支援を行う。
- 育成学級、難聴学級在籍生徒をはじめとした、「困り」を抱える生徒が、学級において安心して学習に取り組めるよう、教育活動のユニバーサルデザイン化と人権教育の視点も取り入れた教育活動の充実を図る。

④ 校種間連携、地域とのつながりを軸とした教育活動の充実

- 校下2小学校（正親小・二条城北小）との小中一貫教育を充実させ、生徒の多面的な指導が可能となるよう情報交換を密に行う。
- 地域とのつながりの中で、生徒が自己存在感や共感的な人間関係の育成に結び付くよう、教育活動の充実を図る。

⑤ 教職員研修の充実

- 「学び続ける生徒」の育成に向け、教職員自らの資質・指導力の向上が可能となるよう、教職員研修を充実する。
- 研修を通して、「教職」という仕事の崇高さ・使命感を高め、志高く日々の教育活動に取り組むモチベーションづくりを行う。

⑥ 風通しの良い職場環境の創出

- 生徒にとって「学び甲斐のある学校」の創造に向け、教職員にとっても「働き甲斐のある学校」となるよう、生徒も教職員も「ウェルビーイング」を大切にできる学校づくりを行う。
- 「うまくいかないこと」を相互にフォローできる職場風土の醸成を目指す。
- 教職員の在校時間削減と、学校教育目標実現に向けた教育活動の充実の両方を目指す「働き方改革」に取り組む。

➤ 「働き方改革」の推進に向けて

- 在校時間：（原則）月45時間以内・年間360時間以内
- 電話対応時間：17時30分まで（小中と統一）
- 「定時退庁日」の設定（水曜日に「二条Day」として設定）
- 「部活動ガイドライン」に基づいた部活動の実施
- 保護者連絡ツール「すぐーる」の活用（軽微な連絡は“すぐーる”で）
- 質の高い教育の保障と教職員のウェルビーイング向上